動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番

97.6.18 No. 4612

9月ガイドライン改定阻止へ
四月決戦の火ぶたを切る

6・15ガイドライン中間報告粉砕全国統一行動かちとる

「六・一五ガイドライン中間報告粉砕全国統一行動」が、東京・大阪・広島・福岡、各地区で闘われた。首都圏の総決起集会には東京・明治公園に八五〇名が結集した。

六・一五全国統一行動は、九月のガイドライン改定の場である日米安保協議会粉砕闘争に至る四ヵ月が重要な攻防の過程になることから、この「四ヵ月決戦」の勝利への第一波闘争としてかちとられた。

集会では、三里塚の北原さん、北富士の天野さん、部落解放同盟全国連、反戦兵士をはじめ、つぎつぎと闘う人士が発言。動労千葉からは田中書記長が、動労千葉の闘う決意を明らかにした。

とりわけ、沖縄からかけつけた反戦地主会会長の照屋秀伝さんは、「先月の今日、極東最大の嘉手納基地第一ゲート前に、軍用地を返せと、千八百名が結集し、アジアの民衆をきずつけ、尊厳を奪う軍事基地に、土地は貸さないことをあらためて確認した。特措法などにまけてたまるか。中間報告では、朝鮮有事をあおりつつ着々と戦争の準備が行われている」・・・

「われわれは誇りをもって闘い抜く、日本の未来は国会では決めない、われわれが決める」と熱烈にアピールした。

動労千葉共闘部長の滝口誠反戦共同事務局長が集会の基調報告を行い、六・一五から始まる「四ヵ月決戦」の方針について提起した。

いよいよ決戦の火ぶたは切っておとされた。正念場中の正念場を迎えた国鉄闘争とガイドライン粉砕闘争は一体の闘いだ。全職場で討論と行動をまきおこそう！動労千葉は闘いの最先頭に起とう！

朝鮮侵略の戦争計画許すな

六月八日、九月の日米安保協議会における、「日米防衛協力のための指針」＝「ガイドライン」見直しの中間報告が発表された。

一九七八年の策定後、初めて改定されるガイドラインは、「日本への直接攻撃」よりも、「これまで空白になっていた日本周辺地域での有事に際しての日米防衛協力についての見直し」を行うとしているが、要するに、「朝鮮有事＝朝鮮侵略戦争」にむけた日米の作戦協力、新軍事協定をつくるということである。

ガイドライン中間報告の内容は、【第一に】、「機雷除去」「海上封鎖・臨検」という武力行使・戦争行為そのものから、「被災地（戦地）への人員・物資の輸送」「在外日本人の救出」と自衛隊が朝鮮に出兵するというもの。

【第二に】、米軍による日本全土の施設・区域の自由使用が前提化されている。侵略戦争へ日本全土が出撃・兵たん基地と化す。米軍の要求では、具体的な空港や港湾の名前があがっている。これは、交通機関などの通常の機能がストップし、戦争のために社会全体が動員されるということだ。

【第三に】、沖縄が朝鮮侵略戦争の最前線基地としてさらに強化される。そもそも、新ガイドライン攻撃と一体のものとして、基地を米軍が自由勝手に使うために、軍用地特別措置法が改悪されたのだ。

【第四に】、労働者がこの戦争に全面的に動員される。自衛隊員や基地労働者はもちろん、運輸・医療・自治体労働者をはじめ、あらゆる労働者を「後方支援」に動員することが計画され、これらが有事法制として確立されようとしている。

こうした、新ガイドライン中間報告の内容、なによりも、朝鮮侵略戦争の切迫の現実を明らかにし、九月日米安保協粉砕ー新ガイドライン粉砕の「四ヵ月決戦」に総決起しよう！

日米防衛指針見直し 中間とりまとめ

周辺有事の協力
40項目で具体化

憲法抵触の恐れも

日米防衛協力

まるで新安保条約

新たな10万人合理化粉砕!!　労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!!